

活用現場 レポート

こうち 耕智ぶどう園

大分県宇佐市
ぶどう栽培

大分県宇佐市の高台でぶどうを生産されている耕智ぶどう園様。品質が良く、安全で美味しいぶどうが大好評！全国からたくさんの方の注文があるそうです。今回は耕智ぶどう園様のFFCの活用方法とその効果をご紹介します。

ぶどうへのFFC活用方法

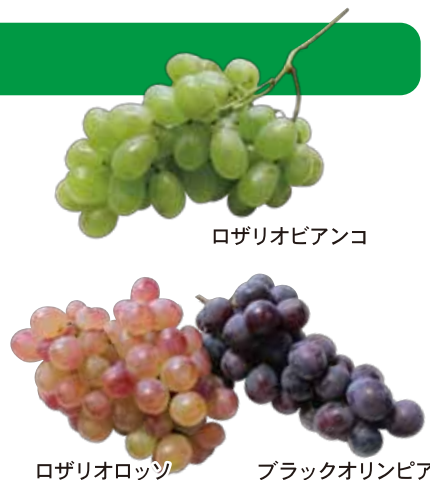
春から収穫前 4月～9月頃

葉が出てくる時期から実が大きくなる時期まで、**パイロゲン希釈水を葉面散布**します。

花が咲く時期はぶどうの樹に頑張ってもらいたいので、濃いめで500倍希釈水を散布、その時期以外は1000倍希釈水を朝夕に散布しています。合計すると**年間で10回ほど葉面散布**をしています。



散布機（スピードスプレーヤー）でパイロゲン希釈水を散布します。



ロザリオビアンコ

ロザリオロッソ

ブラックオリンピア

収穫・出荷



大きい粒がたくさん！

収穫後 10月頃



17種類のぶどうを生産・出荷しています！

収穫が終わるとすぐに土づくりを開始します。元肥を撒く時期にあわせて**FFCエースを散布**します。**1町4反ほどの畑に、写真の散布機にて反当4袋を散布**します。

FFCエースは、様子をみながら**梅雨の時期にも追加で2袋ほど散布**します。また、苗木を定植するときにも、2掴みほど植える穴に入れてから定植します。

病虫害の防除や除草は？

農薬は実の着色や糖度を安定させるために、**花の時期までは最低限の量**を使用しています。実がついてからは、ダニやスリップス*を防ぐために、**害虫が避ける効果のある漢方**を使用しています。

除草の際は、**除草剤はいっさい散布せず、草刈り機で刈った草をそのまま畑に撒いています。**

また、肥料は大分県産の材料から作った堆肥と、植物由来の液肥を使っています。

★昆虫のアザミウマ類の英名。農作物を食害し、害虫とされることもある。



除草剤や農薬は使っていないので、草がまばらに生えています。**蚊やクモなどの虫もたくさんいました！**上にはぶどうがたわわに実り、とても良い香りがします！

耕智様のお話



サラリーマンからぶどう農家になり17年、自然農法など様々な試行錯誤を繰り返し、やっと品質・収量ともに安定してきました。**FFC農法を始めて10年以上**が経った今では、**品質も安定し甘みも酸味もちょうど良く味が濃い、本当に美味しいぶどう**が出来るようになりました。**ハウスのにおいも良い香り**になり、イノシシやハクビシンなどの小動物も寄ってきて困るときもあります。

また、今年は**水不足で他の生産者は実の粒張りが良くなかったようですが、私の畑は影響はなく、美味しいぶどうが実りました。**環境の変化にも影響を受けにくく、収量も安定しています。



葉面散布はFFC元始活水器の水
家庭用FFC元始活水器を導入されています。

FFCを活用してからの変化

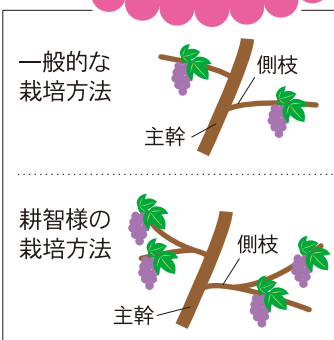
FFCパイロゲン
2002年から活用

FFCエース
2003年から活用

収量が増えた！

1枝から
2房も採れる！

通常は、1枝に1房のぶどうを作ります。これは、1枝に2房作ると栄養不足で2房とも玉太りや着色がうまくいかないからです。しかし**耕智様のところでは、1つの枝から2房作ってもきれいに着色**します。玉太りもとても良い状態です。



収穫時期が長くなった！

他の生産農家では着色し、収穫できる期間が約50日間ですが、**耕智様では約60日間**で、**品種によっては90日間ほどと長い期間、美味しいぶどうを収穫**できるようになりました！

収穫が伸びて忙しい時期が続くのは大変なのですが、美味しいぶどうを長い間お客様にお届けできるので、とても嬉しいです！



土が柔らかくなった！！

土がフカフカ



FFC資材を使用して、土がやわらかくなりました。また、実の玉太りもよく1房の重量が増えたため、**ぶどう棚の重さと土の柔らかさで支柱が沈んで斜めになってしまいました。**

重さに耐えられず曲がる支柱もあるため、コンクリートの棒で支えを作りました。

身長180cmほどの耕智様。以前は立って作業をしていましたが、支柱が沈んで棚全体が低くなったため今は腰を曲げないとぶつかってしまいます。土が柔らかくなって嬉しいのですが、困ったこともあります。



環境の変化に負けない！

ハウスを閉め切って30分ほど外出している間に、ハウス内が暑くなりすぎて、**葉がしおれて枯れてしまったことがありました。**

専門家の方に見てもらっても「あきらめた方がいい」と言われてあきらめていましたが、**しばらくして芽が出てきました。さらに、パイロゲン希釈水を散布してみると立派な実がなりました！**

研究事例紹介 ぶどう成木へのFFCエース施用試験

山梨大学ワイン科学研究センター 鈴木俊二 准教授（果実遺伝子工学研究部門）調べ

ぶどうの成木（品種：シャルドネ）の根圏土壌表面にFFCエースを散布するとともに、樹の周辺4箇所に穴を掘ってFFCエースを投入しました（FFCエース施用量合計は成木1本辺り3.7kg/年）。その結果、**無施用の場合と比較して、収穫期の果実の糖度が上昇しました。**FFC資材の施用によって耕智様のぶどうのように果実の品質が向上することは、研究機関においても確かめられています。

